

## 豊かな学力を育む指導のあり方 ～国語力の向上をめざした授業実践を通して～

### I. 主題設定の理由

めざましく変化する現代社会においては、対象や事象に対し主体的に関わり、自ら考え判断していく力を子ども達に育むことが求められている。その根底をなすのは、基本的な知識・技能の確実な定着である。

本校では、昨年、一昨年と「総合的な学習」の研究に取り組み、その中で、総合的な学習を支える教科の基礎・基本の定着の必要性が確認された。昨年末の学力検査の結果、基礎・基本の確実な習得という点から、いくつかの本校児童の課題が明らかになった。その課題の解決に向け、子ども達に豊かな学力を保障するため、今年度は、すべての学習の基盤である国語力の向上を中心に据えた研究を行うこととした。

そこで、子ども達の実態分析の中で明らかになった本校児童の実態を基に、「聞く・話す」の領域の指導を通して主に「表現力」を、「読む」領域の指導を通して主に「語彙・思考力」の向上を目指していきたい。本年度は、学校教育の中核である授業を実践する中で、子ども達に確かな国語の力を身に付けさせるべく研究を進めていきたい。

### II. 研究の内容

#### 1 研究の内容と方法

- (1) 国語力についての研修会
- (2) 児童の基礎学力の実態把握と分析
- (3) つけたい力を明確にした国語科の授業実践
- (4) 一人一授業実践をとおしての研修

#### 2 研究実践

##### (1) 理論研究

6月「国語力の向上」を図るために

講師 渡井 渡先生（義務教育課指導主事）

8月「国語の基礎学力を育てる 論理的な思考力・表現力を育てる授業づくり」

講師 鶴田 清司先生（都留文科大学教授）

##### (2) 授業研究

第2学年 教材名「お手紙」

授業者 加藤 友子教諭

目指す言語能力 場面の様子について、想像を広げながら読む力

指導助言 峡東教育事務所 指導主事

泉 久功

- 第4学年 教材名「よりよい意見にまとめよう」 授業者 赤星 美佐教諭  
 目指す言語能力 互いの考えの相違点や共通点を考えながら、すすんで考えることができる力
- 第5学年 教材名「人と『もの』との付き合い方」授業者 堀井 勝彦教諭  
 目指す言語能力 話の組み立て方や話し方を工夫し、聞き手に分かりやすく話することができる力
- 指導助言 峡東教育事務所 指導主事 泉 久功
- 第6学年 教材名「平和のとりでを築く」 授業者 三森 公仁教諭  
 目指す言語能力 書かれている内容について事象と感想、意見の関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらかよることができる力

### (3) 授業実践

- 第1学年 教材名「わたしは、なんでしょう」(話すこと・聞くこと) 授業者 山宮 由紀教諭
- 第3学年 教材名「三年とうげ」(読むこと) 授業者 海沼 潤子教諭

### (4) 部会研究・全体研究

- ア「読む」部会 ・部会テーマに基づいた授業案づくりと検証授業
- イ「話す・聞く」部会 ・部会テーマに基づいた授業案づくりと検証授業
- ウ 全体研究 ・児童の基礎学力の実態把握と分析(5月)、  
各学年の取り組みの成果と課題(2月)

## Ⅲ. 成果と課題

### (1) 成果

- ・講師の先生方の話を聞くことにより、研究の方向性が打ち出されたり、発展的に考えたりすることができた。また、評価基準や指導過程について等、具体的に学ぶことができた。
- ・授業研究は、実際に見ることによって学ぶことが多かった。研究授業は大変であるが教師も子どもも上達するために大切だと思う。
- ・授業が子ども達の力を付ける原点だと思う。日々の授業を積み重ねる上でやはりどのような授業を仕組んだらよいかを研究することが大事だと思う。気軽に授業を見せ合うようにしたらいいと思う。
- ・二つに分かれて研究し授業を行い、その後、校内研で授業の反省や課題を全員で取りみをし、お互い研究について勉強することができて良かった。

### (2) 課題

- ・学校全体として焦点を絞っていく部分を(授業だけでなく)作って、取り組む必要があると思う。
- ・授業の質を高めながら、日常活動のあり方を探る、または、再考する必要があると思う。研究のための研究ではなく、子ども達の質を高めるために。
- ・今年度それぞれで取り組んだが、「こんな仕組みを取り入れてみよう」というものが考えられたら、そうしたものをに入れてやっていくのはどうだろう。

(研究主任 海沼 潤子)